

令和8年度
校長だより

あかつき 6月号



～ あかつき山の麓から感謝を込めて ～

丹波市立新井小学校 校長 荻野由香里

体験が育む子どもたちの成長

～自然学校・修学旅行を終えて～

梅雨の時季になりました。処々に咲くさまざまな色をした紫陽花が美しい季節です。地域の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素から本校の学校教育活動へのご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、1学期も後半に入りました。5月下旬には、5年生が自然学校、6年生が修学旅行を無事に終えました。これらの活動は、現地だからこそ得られる「生きた学び」を体験する貴重な教育活動です。学校を出発する時には、「新井小で頑張っている『にこ・はき・どん』の姿が、学校の外でも発揮できるようにしましょう！」と話しました。校外での学習では、学校で身につけたことがどれだけ発揮できるかも試されていると思います。

5年生の自然学校は、崇広小学校、青垣小学校との連合で実施しました。初めての出会いは少し緊張している様子もありましたが、一緒に活動するにつれて仲良くなり、笑顔で活動する様子が多く見られました。山での活動は野外炊事や木の枝を使った鉛筆づくり、海での活動はカッターやカヌーなど、自然の中で行うプログラムが計画されています。自然学校では班活動が基本となり、活動の目的を達成するために、考えを出し合ったり協力したりすることが大切です。初めて会う友だちとも、お互いの考えを上手に擦り合わせながら最適解を出していく必要があります。また、家族から離れて4泊5日過ごすことも、子どもたちにとっては大きな挑戦だと思います。一人一人が班での役割を果たしながら、充実した4泊5日を過ごすことができました。自然学校での経験が、今後の学校生活にも活かせることを期待しています。



6年生の修学旅行は広島と宮島を訪れました。広島の平和記念公園では「原爆の子の像」の前で平和セレモニーを行いました。この像は、2歳の時に被爆し小学校6年生の秋に白血病を発症して12歳で亡くなった佐々木禎子さんの死をきっかけに建てられたものです。禎子さんは被爆当時、外傷もなく元気に成長していましたが、突然の病に倒れ、入院中も回復を願って折り鶴を折り続けました。その死をきっかけに、原爆でなくなった子どもたちの霊を慰め、平和を築くためのシンボルとしてつくられたのが「原爆の子の像」です。6年生は修学旅行の事前学習でこの歴史を学び、平和への願いを全校生に呼びかけました。セレモニーでは、全校生の思いが込められた折り鶴をしっかりと捧げ、平和への誓いを新たにしました。

戦争が二度と起きないように、自分達が行動していくことで、人々が幸せで、平和な未来を創っていくことを、ここで誓います。

これは、平和セレモニーで子どもたちが誓った言葉の一部です。広島の地で誓った言葉が、これからもずっと子どもたちの胸に残ることを願っています。

宮島では世界文化遺産・厳島神社を訪れ、現地のガイドさんにお話を聞きながら見学しました。日本の歴史や文化を体感することができた1泊2日となりました。

地域の歴史と想いを学ぶ「新井塾」がスタート！ ～今年のテーマは「校歌」～

今年で21年目を迎える「地域づくり事業」。2015年から名称を「新井塾」とし、新井地区にある「ため池やその水」「北山坂」「校歌」を通して、地域の歴史や先人が築いてこられた地域のよさを学びます。本年度も6月5日に開講式をし、6年生が学習をスタートさせました。今年のテーマは「校歌」です。「♪白雲なびく高見山～♪」から始まる新井小学校の校歌に、どのような風景が描かれ、どのような意味が込められているのかを探究します。地域のゲストティーチャーにもご協力いただきながら学習を進め、子どもたちが今よりもっと新井地区や新井小学校を好きになることを期待しています。

